

木材需給動向について (近畿中国地区)

令和2年11月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギその他（近畿中国地区）

ウ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格の推移・動向

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・近畿中国地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

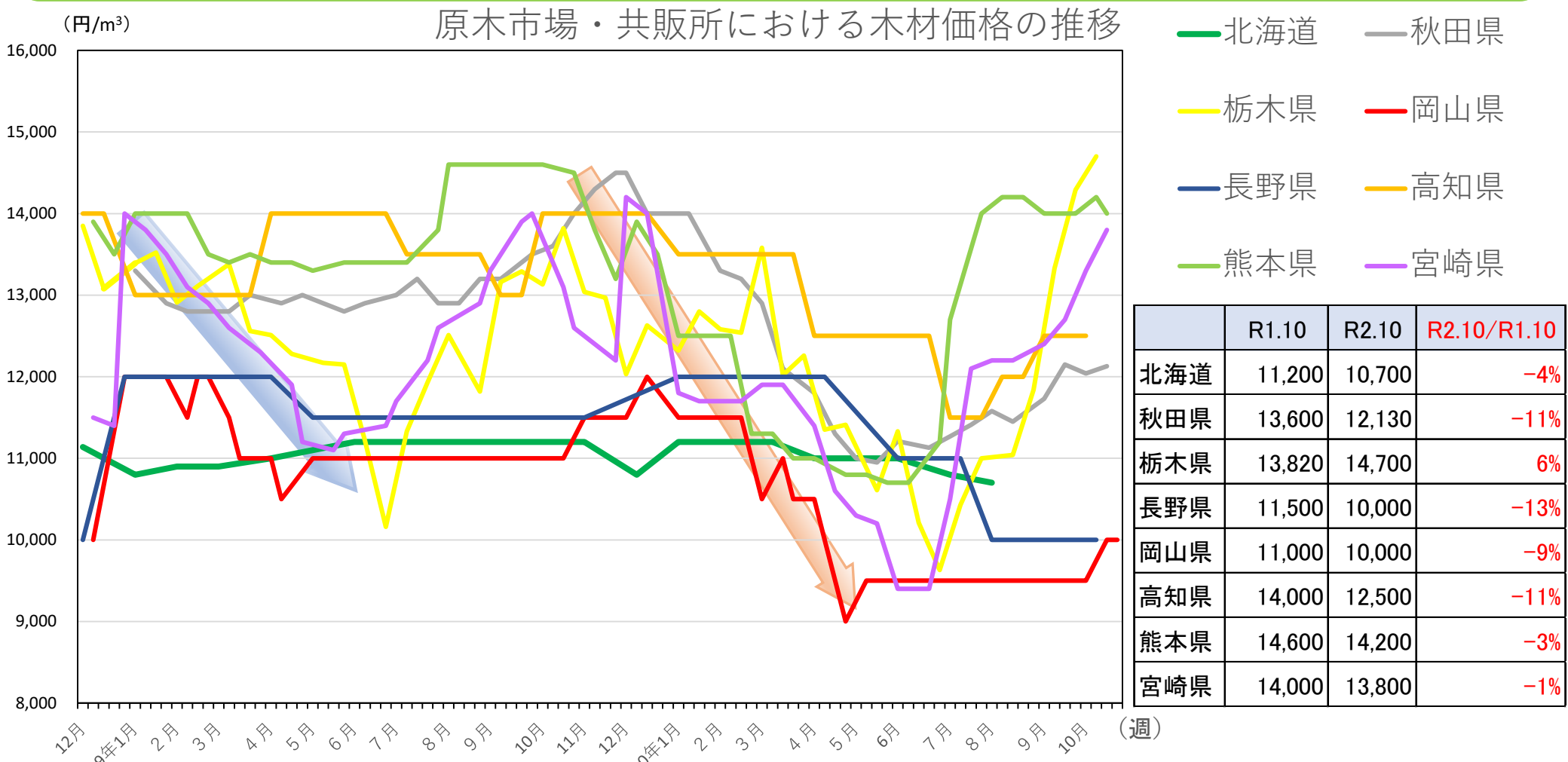
(1) 住宅着工戸数の推移

(2) 近畿中国地区の新設住宅着工

4 主要木材の需給見通し

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)
ア スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあるが、本年は下落幅が大きくやや急となっている。
- ・ 6月下旬から、栃木県、熊本県、宮崎県では価格の回復が見られる。
- ・ 本年10月のスギ原木価格は、対前年比13%減~6%増。

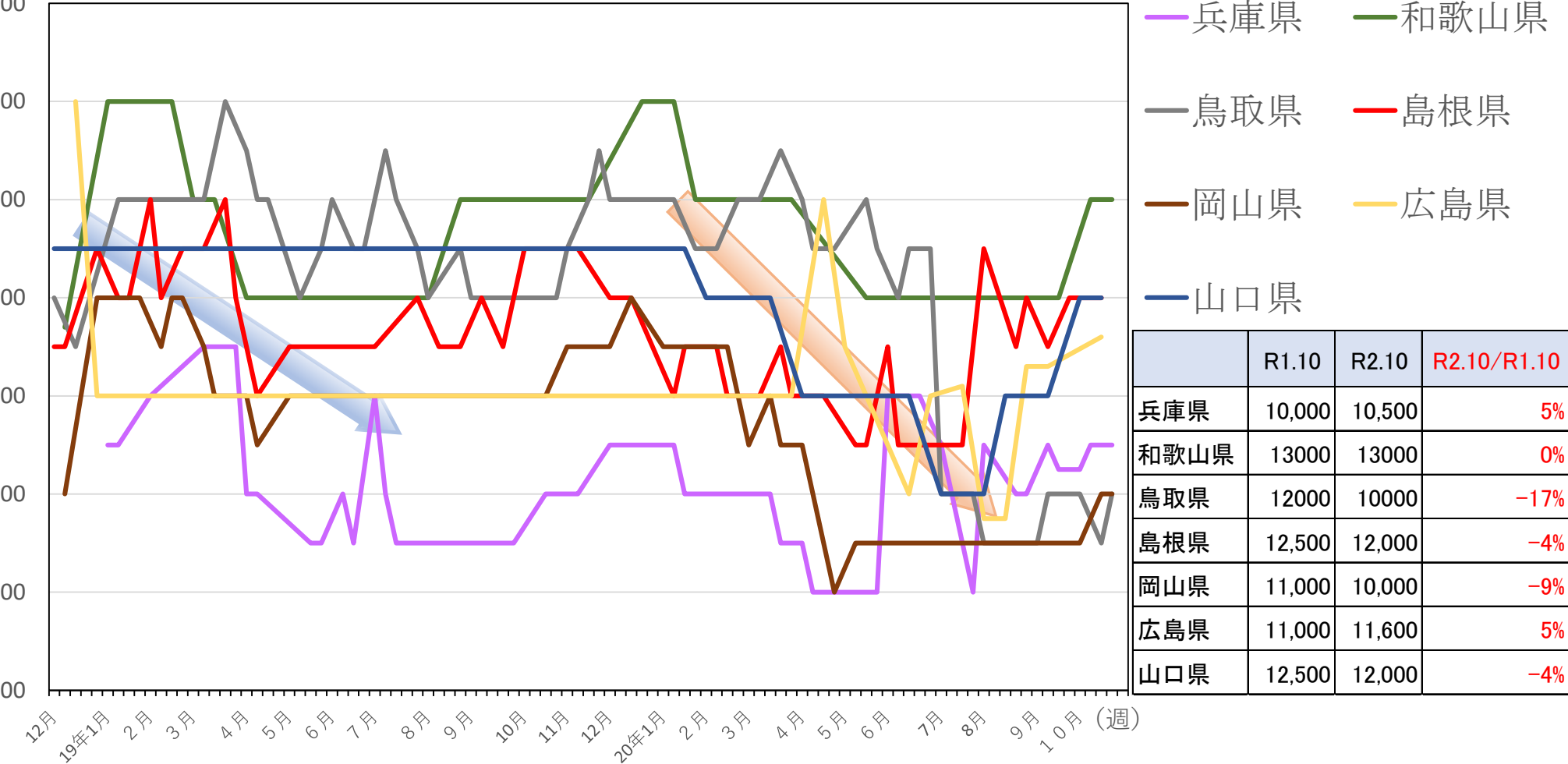


注1：北海道はカラムツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。
注2：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ(近畿中国地区) φ24cm程度、3.65～4.0m (平成30年12月～)

- ・ 例年12月から梅雨時期まで原木価格は下落する傾向にあり、本年は岡山県、鳥取県において、下落幅が大きくなっているが、7月以降、島根県、広島県、山口県では価格の回復も見られる。
- ・ 本年10月末のスギ原木価格は、対前年比17%減～5%増。

(円/m3) 原木市場・共販所における木材価格の推移



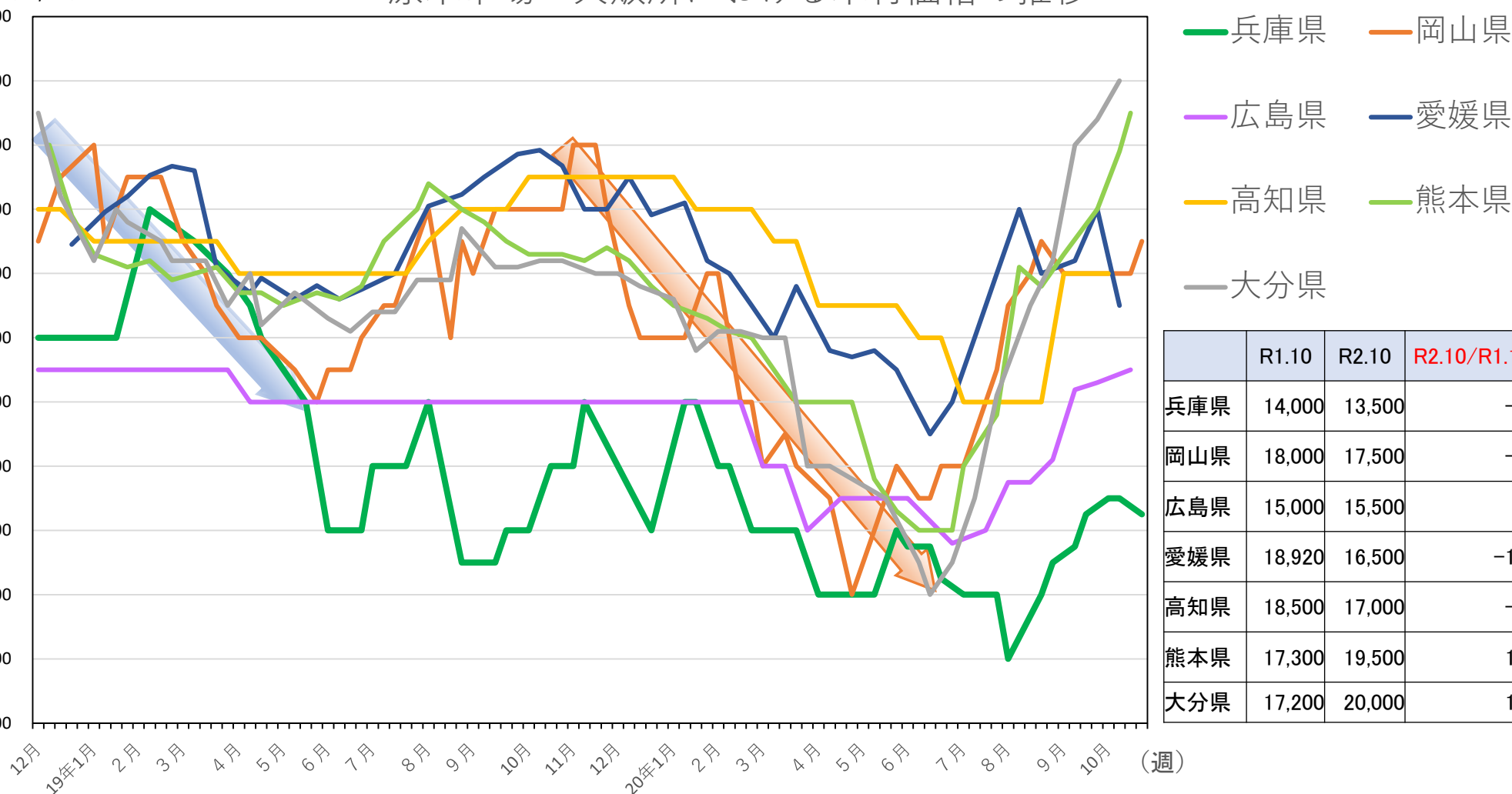
注1：都道府県が選定した特定原木価格・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

ウ ヒノキ（全国） φ24cm程度、3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ヒノキにおいてもスギと同様に例年以上の下落幅となっている
- ・本年10月末のヒノキ原木価格は、**対前年比13%減～16%増。**
- ・本年7月以降、岡山県、広島県、熊本県、大分県では価格が回復傾向。

原木市場・共販所における木材価格の推移

(円/m³)



注：都道府県が選定した特定の原木価格・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格の推移・動向

- ・製品価格は原木価格と異なり季節変動はないが、本年は価格の下落が見られる。
- ・住宅の着工動向によっては、今後も下落の傾向が続く可能性。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/㎡]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道 (エゾ・トド)	67,700	→67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	-
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	→55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	→53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	→54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	→60,000	→55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	→54,000	54,000	→52,000	→50,000	50,000	50,000
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	52,000	→50,000	50,000	→48,000	48,000	→47,000	→46,000	46,000

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/㎡]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
首都圏	66,000	→65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	→63,000	63,000	→61,000	→59,000	59,000	59,000
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	→61,000	61,000	61,000	→60,000	60,000	60,000

※九州のみ120×120×3000mm

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm[円/本]

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
北海道 (エゾ・トド)	2,000	2,000	→2,100	2,100	2,100	2,100	2,100	-
北海道 (カラマツ)	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	-
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,900	→1,880	1,880	1,880	→1,860	1,860	1,860	1,860
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm[円/枚]

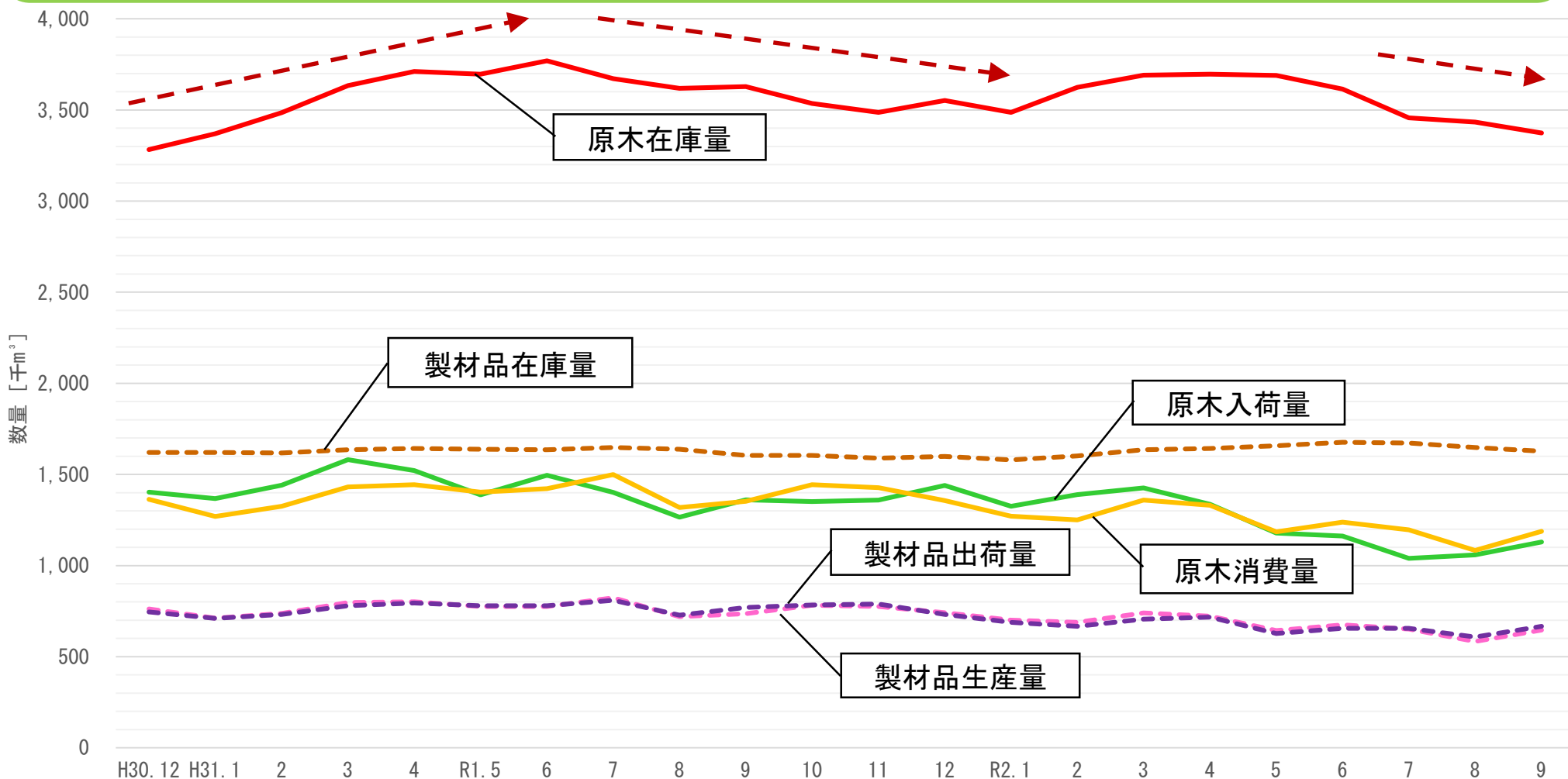
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	→950	950	950
首都圏	1,050	→1,030	1,030	→1,010	→980	→950	950	→940
名古屋	1,050	→1,020	1,020	→1,000	→960	→930	930	930
大阪	1,050	→1,010	→1,000	→990	→950	→920	→900	900
広島	1,070	→1,050	→1,030	1,030	→1,000	→950	→930	930
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

「製材統計」によると、

- ・製材品の生産量、出荷量は年間を通じて大きな変化はないが、5月以降緩やかに減少していたが、9月は若干増加（グラフの破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は2、3ヶ月単位で、在庫量は半年単位で増減を繰り返す傾向。
- ・現在、原木の入荷量・消費量は若干の増加傾向、在庫量は減少に移行しつつある。

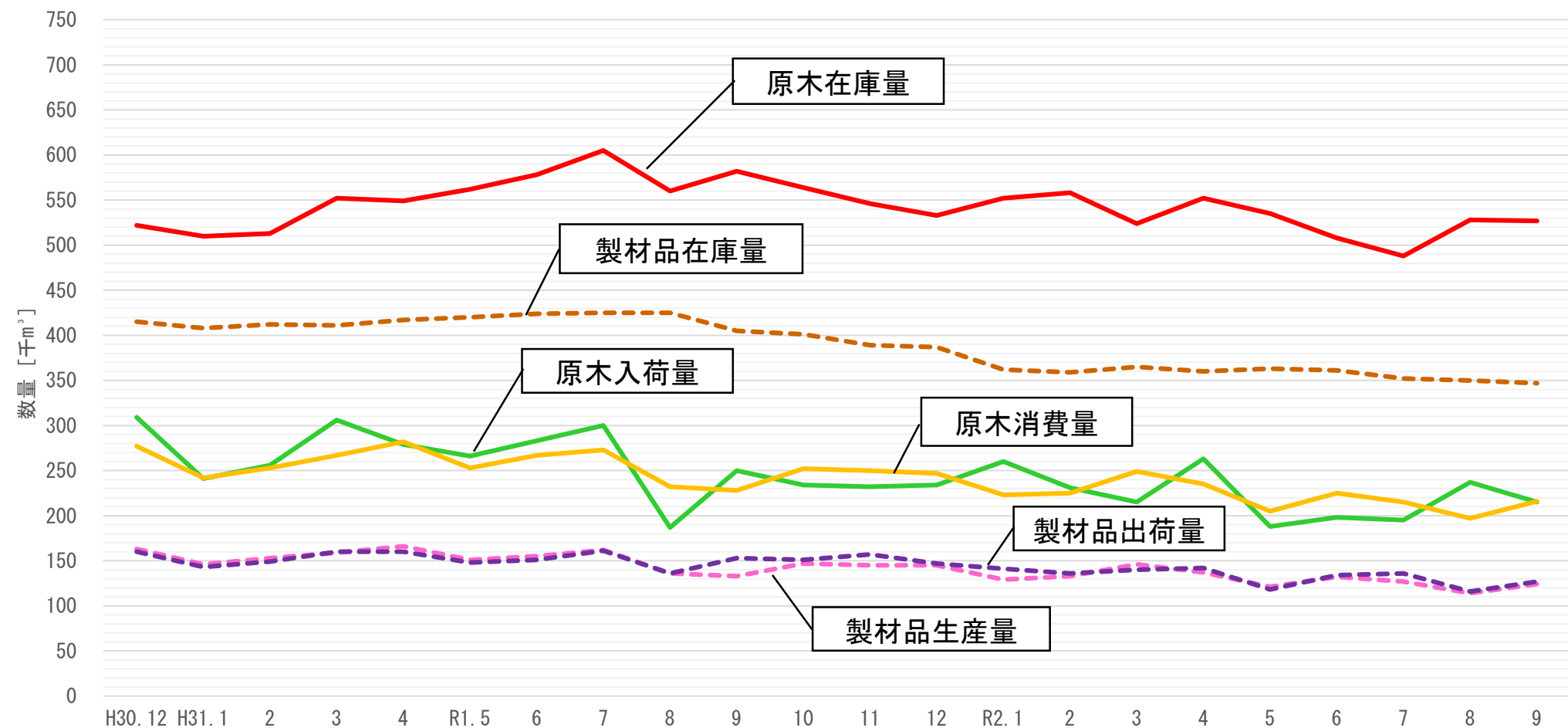


資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材 (近畿・中国地区)

「製材統計」によると、近畿・中国地区では

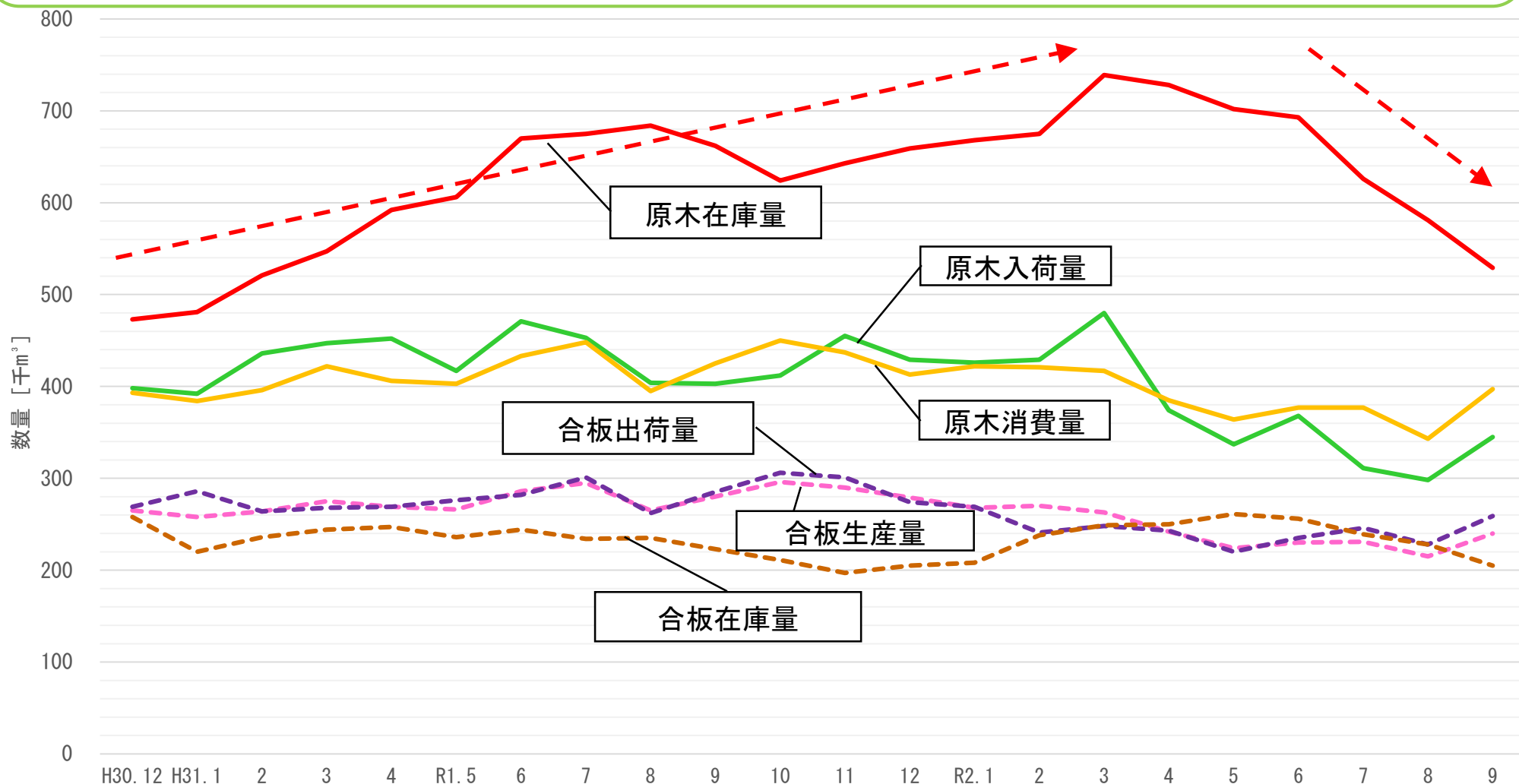
- ・ **製材品の生産量・出荷量**は昨年、毎月約15万m³で推移したが、今年は約12万m³まで減少した月もある。
- ・ **原木の入荷量・消費量**は2、3ヶ月単位で増減を繰り返す傾向にある。



(2) 合板（全国）

「合板統計」によると、

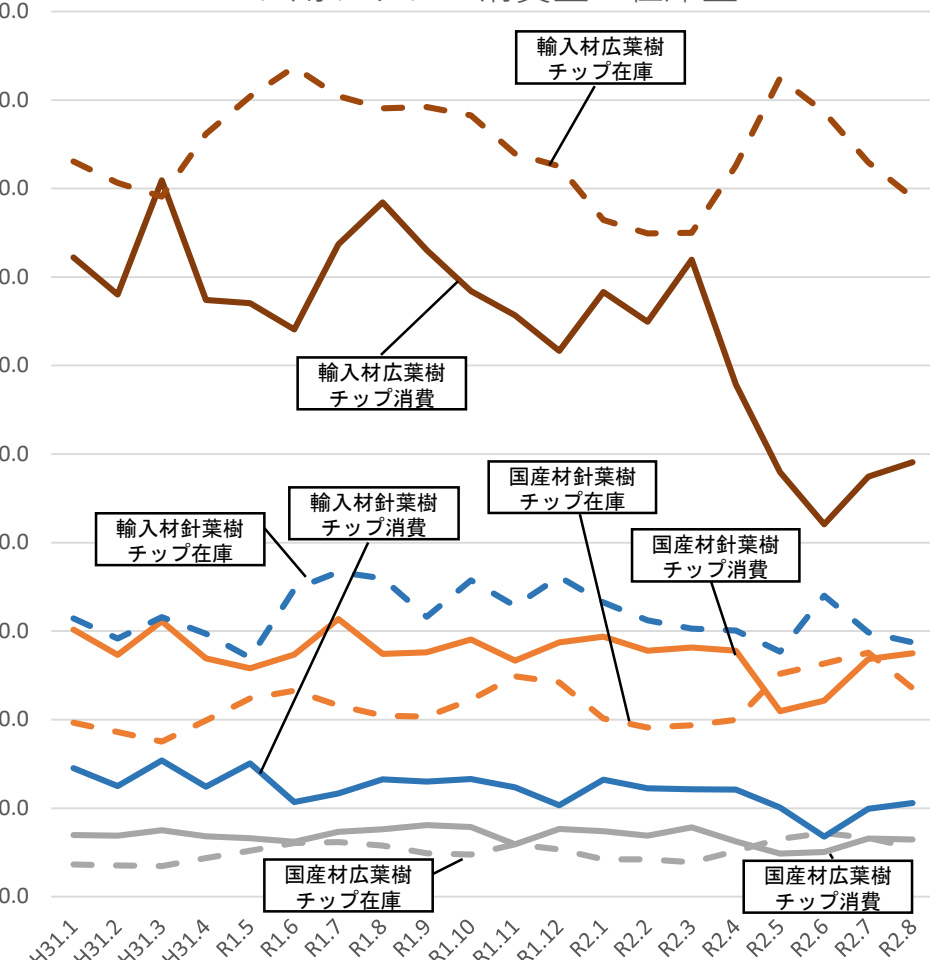
- ・合板の生産量、出荷量は昨年10月以降、減少傾向にあったが、横ばいから増加へ移行。
製品在庫量は増加傾向にあったが、5月以降、減少傾向（グラフの破線部分）。
- ・原木の入荷量、消費量は、数ヶ月単位で増減を繰り返している。4月以降の入荷量は急激に減少。9月は、増加。
- ・原木の在庫量は増減を繰り返しつつ長期的に増加していたが、4月以降再び減少傾向が続いている。



(3) チップ(全国)

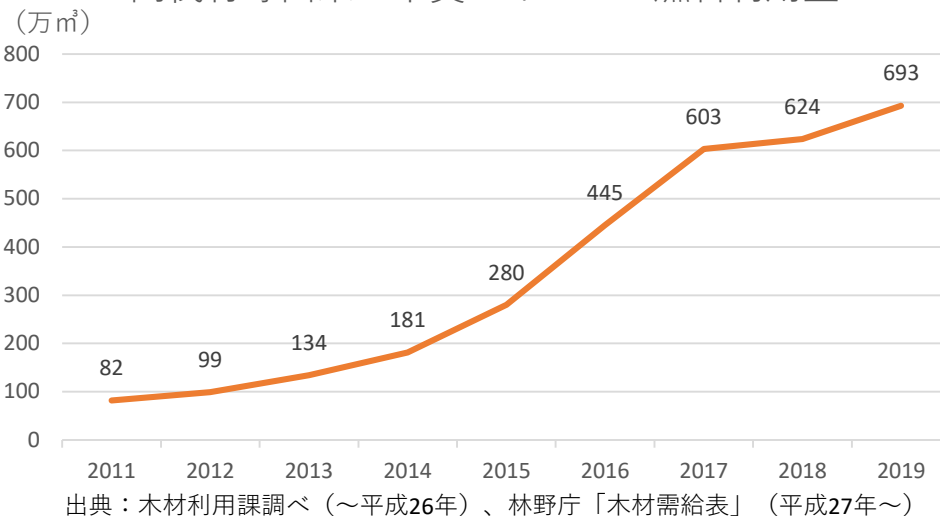
- ・ **パルプ用チップの消費**について、**輸入広葉樹チップ**は今年4月から**激減**。**国産針葉樹チップ**も今年5月に大きく**減少**。
- ・ **パルプ用チップの消費減少**については、**印刷・情報用紙の生産減が原因**と考えられる。
- ・ **木質バイオマス発電向け燃料**については、**増加傾向が続いている**。

(万 m^3) パルプ用チップの消費量・在庫量

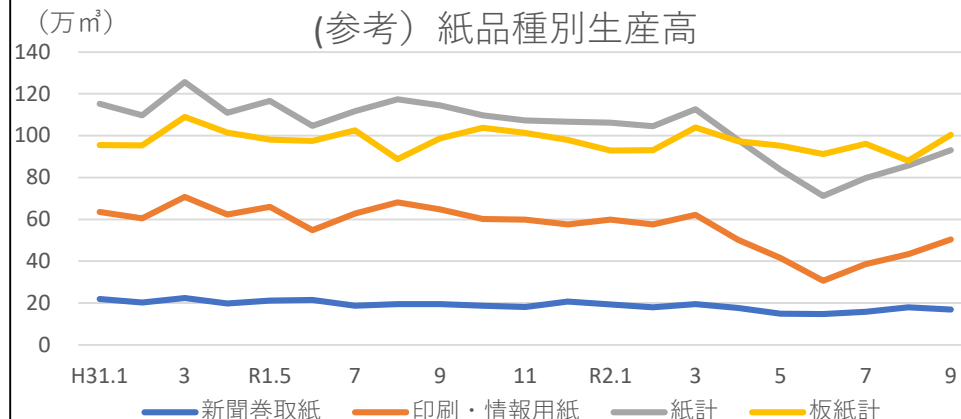


資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

間伐材等由来の木質バイオマス燃料利用量



(参考) 紙品種別生産高



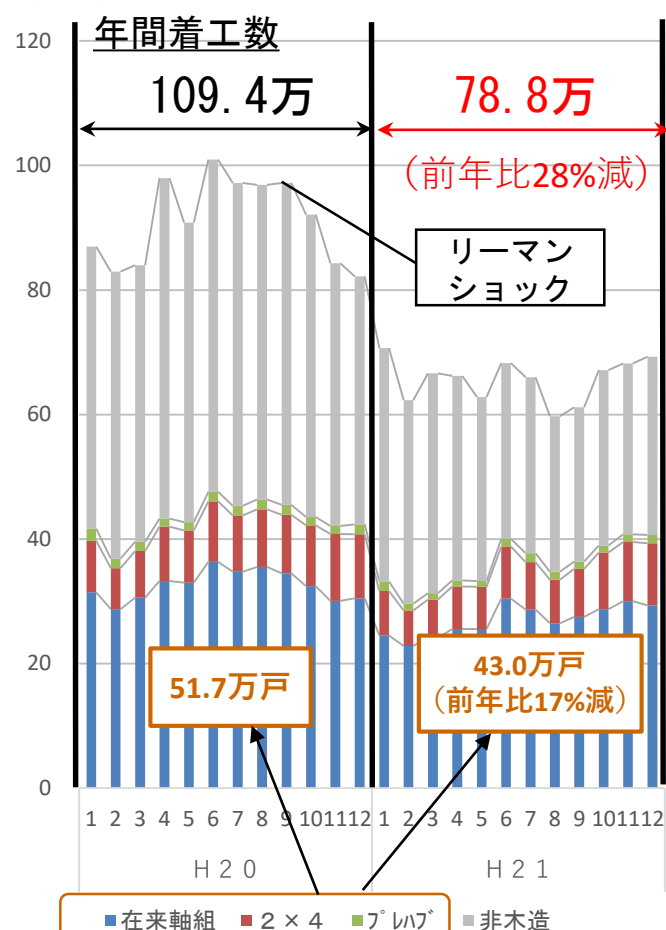
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

3 住宅着工戸数の動向

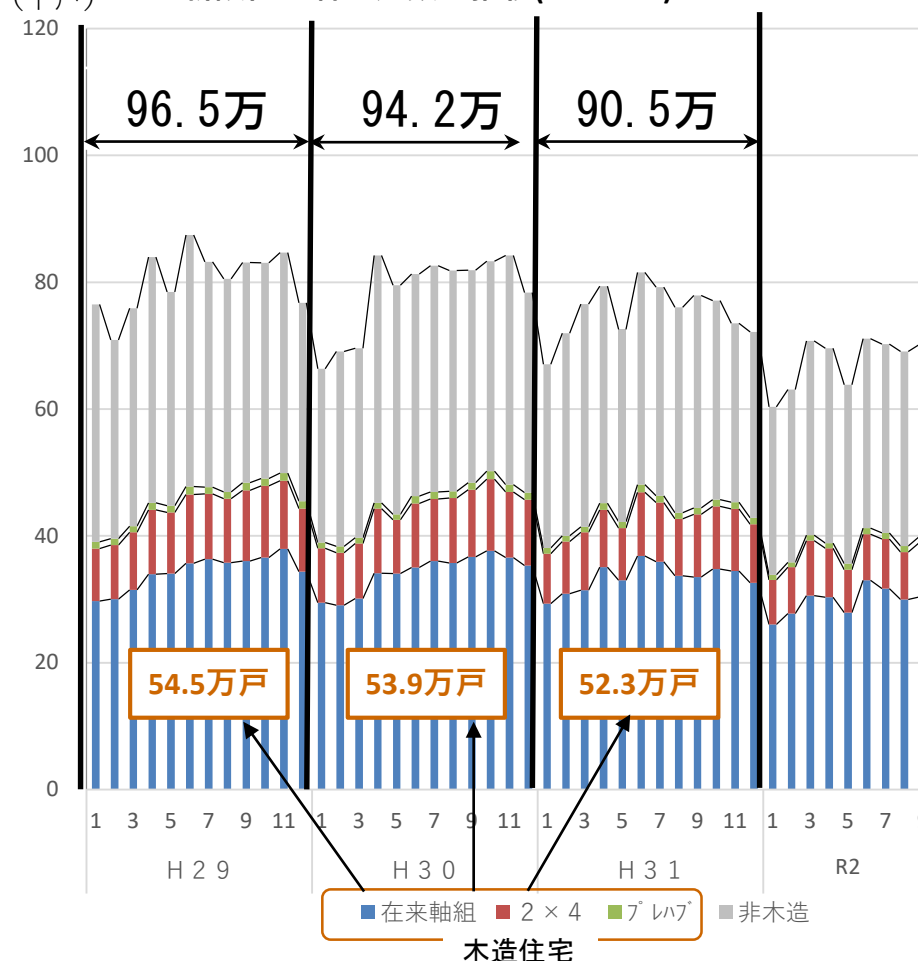
(1) 住宅着工戸数の推移（平成20年1月～令和2年9月）

- ・ 昨年度の新設住宅着工戸数は、90.5万戸。そのうち、**木造住宅は52.3万戸（57.8%）**。
- ・ **令和2年度1～9月**の木造住宅着工戸数は、**34.4万戸（前年比11.6%減）**。
- ・ 緊急事態宣言の発令により、**大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少した影響が懸念**されるが、まだ着工戸数に目立った落ち込みは見られない状況。

（千戸） （参考） H20～21



（千戸） 新設住宅着工戸数の推移(H29～R2)



令和2年1～9月期
住宅着工戸数

総計 60.8万戸
(前年比10.9%減)

非木造 26.4万戸
(前年比9.9%減)

木質プレハブ 0.8万戸
(前年比11.2%減)

2 × 4 6.9万戸
(前年比15.0%減)

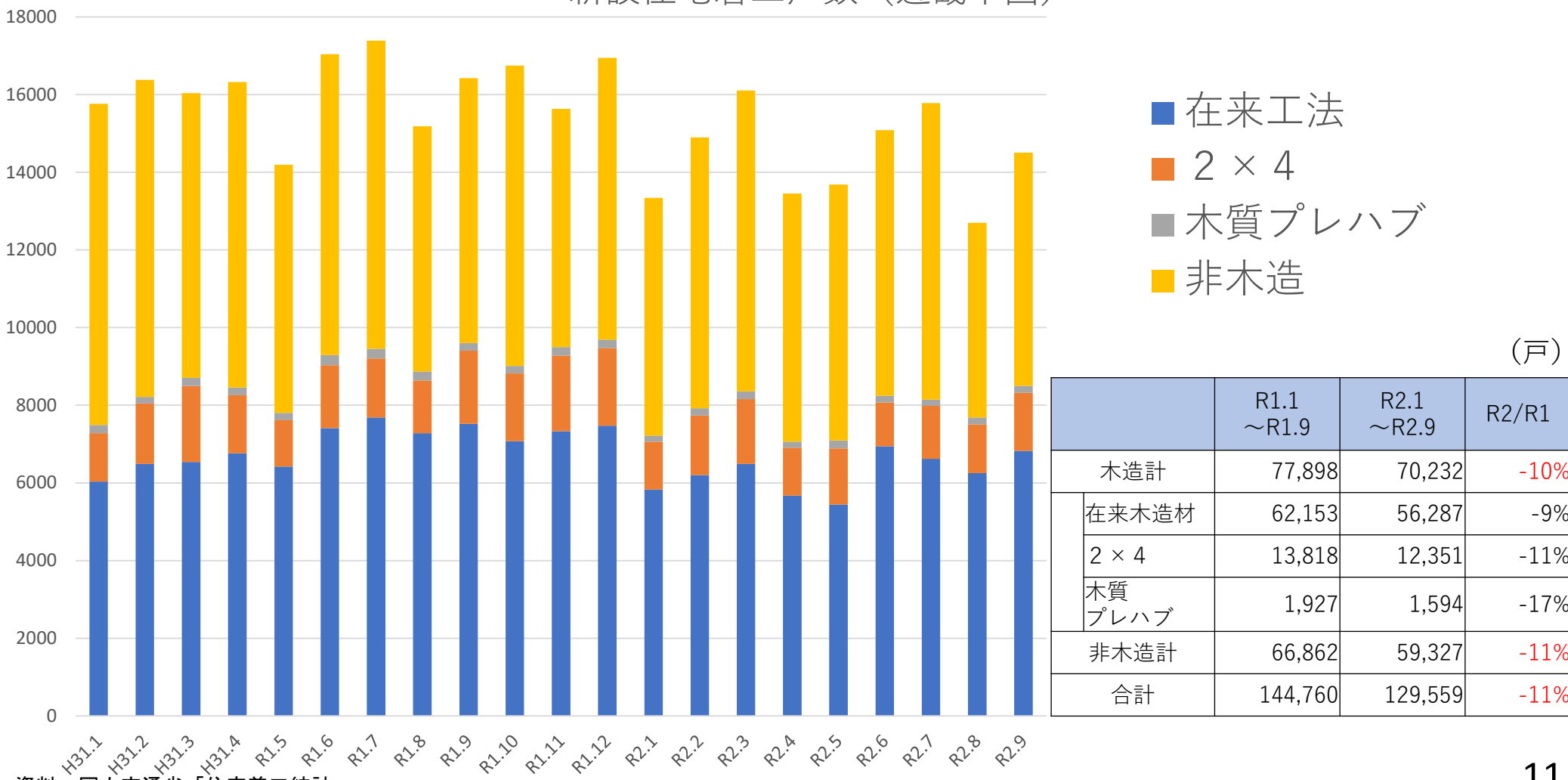
在来木造 26.8万戸
(前年比10.7%減)

木造34.4万戸
(前年比11.6%減)

(2) 近畿中国地区の新設住宅着工（平成31年1月～令和2年9月）

- ・近畿中国地区の新設住宅着工戸数について、今年1～9月期の昨年同期の実績を比較すると、全体として**11%減**となっており、**木造も非木造も同程度の減少幅**となっている。

新設住宅着工戸数（近畿中国）



4 主要木材の需給見通し（令和元年第2四半期～令和3年第1四半期）

林野庁が主催する木材需給会議（9月28日開催）では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・国産製材用丸太は、第2四半期に前年同期比85.0%に減少したが、第3四半期以降増加に転じる見込み。
- ・国産合板用丸太は、第2四半期に前年同期比81.8%に減少したが、第4四半期以降に反転する見通し。
- ・合板の国内製造は、第2四半期に前年同期比84.8%に減少したが、第4四半期以降に反転する見通し。

（下段は前年同期比）（カッコ内は前回までの見込み）（単位：千m3）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品	合板		構造用集成材	
			国産材		輸入		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用	計	計				
令和元年 (平成31年)	第 2（4－6月）	実績	3,366	1,256	827	1,567	821	614	475	210
			103.1%	108.4%	104.1%	94.8%	100.8%	79.2%	102.2%	92.1%
	第 3（7－9月）	実績	3,046	1,190	658	1,501	841	589	490	218
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	第 4（10－12月）	実績	3,324	1,212	715	1,352	865	648	505	214
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	年計		13,108	4,839	3,026	5,795	3,324	2,535	1,915	839
			103.3%	108.1%	94.0%	94.4%	103.3%	86.7%	105.5%	103.2%
令和2年	第 1（1－3月）	実績	3,222	1,217	649	1,261	801	633	460	212
			95.6%	103.1%	78.6%	91.7%	100.5%	92.5%	103.4%	107.6%
	第 2（4－6月）	実績	2,861	1,027	555	1,461	696	616	465	256
			85.0%(77.2%)	81.8%(87.6%)	67.1%(74.8%)	93.3%(83.9%)	84.8%(88.9%)	100.4%(99.7%)	97.9%(97.9%)	121.9%(104.8%)
	第 3（7－9月）	見込み	2,900	960	562	1,328	680	486	410	280
			95.2%	80.7%	85.4%	88.5%	80.9%	82.5%	83.7%	128.5%
	第 4（10－12月）	見通し	2,900	980	476	1,230	700	518	365	220
			87.2%	80.9%	66.6%	91.0%	80.9%	79.9%	72.3%	102.8%
	年計		11,883	4,184	2,242	5,280	2,877	2,253	1,700	968
			90.7%	86.5%	74.1%	91.1%	86.5%	88.9%	88.8%	115.4%
令和3年	第 1（1－3月）	見通し	3,000	1,000	545	1,270	700	527	365	250
			93.1%	82.2%	84.0%	100.7%	87.4%	83.3%	79.3%	117.9%